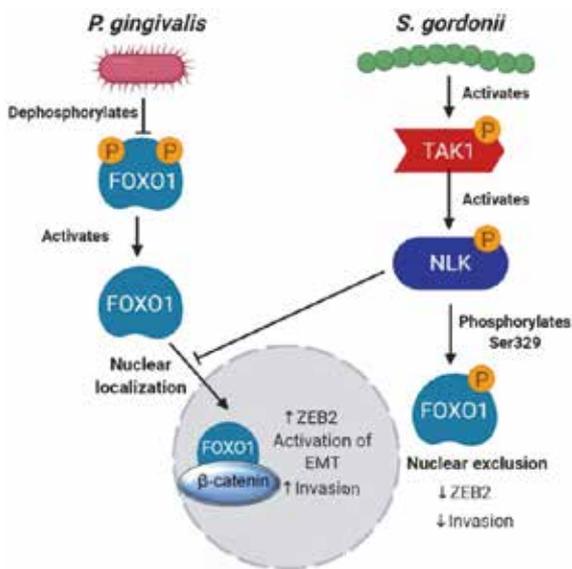
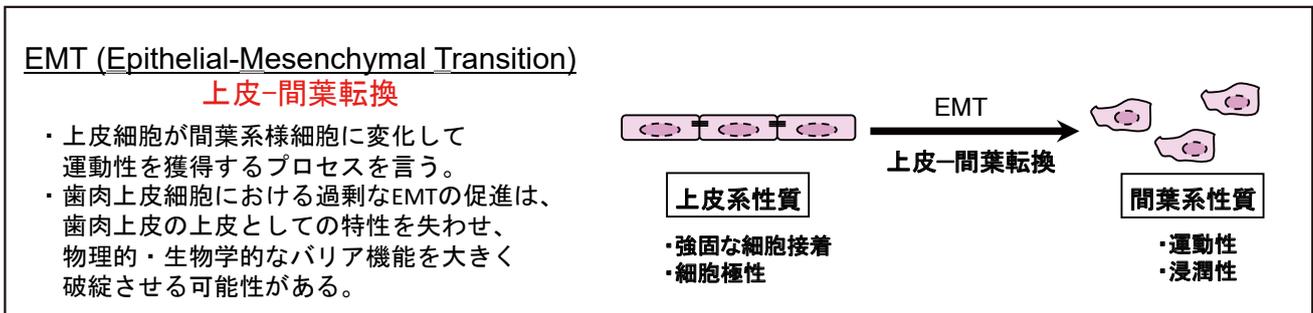
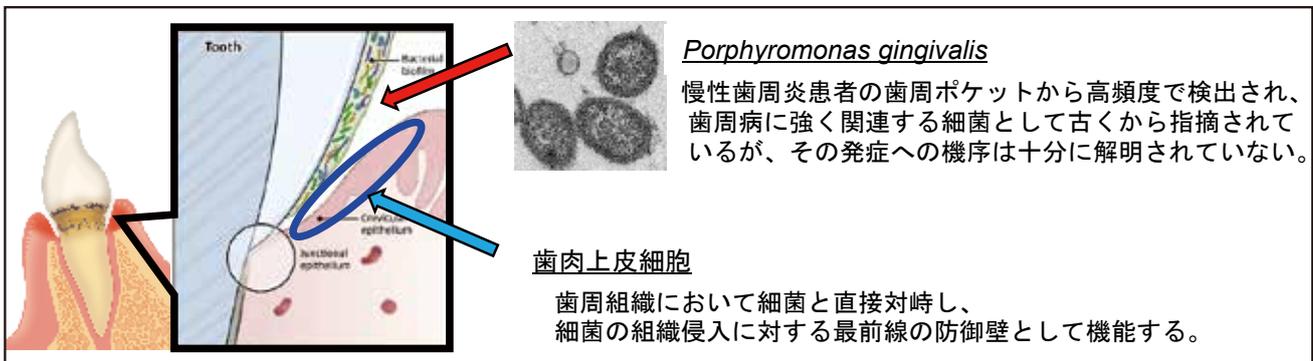


# 歯周病原性細菌による 上皮間葉転換誘導機構の解明

歯周病は、歯肉溝など清掃が行き届かない局所で定着・増殖した細菌と、それに対する生体側の免疫応答の結果、歯周組織に炎症が生じて組織破壊をきたす感染性疾患である。主要な歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* は、歯肉上皮細胞において上皮間葉転換という現象を誘導することによって歯肉上皮のバリア機能を破綻させる

可能性が示唆されていたものの、その分子機序はこれまで不明のままであった。本研究では、*P. gingivalis* 感染による上皮間葉転換に必要なシグナル伝達経路を世界に先駆けて解明し、さらに、その誘導機構に拮抗する能力をもつ常在細菌として、*Streptococcus gordonii* を同定した。これらの結果は国際的科学雑誌であるPNAS誌に掲載された。



*Porphyromonas gingivalis* 感染による上皮間葉転換および *Streptococcus gordonii* による拮抗作用の詳細なシグナル伝達経路を世界に先駆けて解明した。歯周病原性細菌による潰瘍形成や悪性腫瘍の転移促進メカニズムの解明につながる可能性が見込まれる。

